



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2016年1月1日

1月号・第168号

奈良・人と自然の会



明けましておめでとうございます

Contents

ホームページでは、カラーで見ることが出来ます



URL <http://www.naranature.com>

会長・新年挨拶	1	「鳥」シリーズ・2月探鳥会予告	12
多土済々	2	やさしい昆虫講座	13
Monthly Repo.ならやま	3	青垣春秋	14
里山の今	4・5・6	俳句百景	15
12月新蕎麦祭り・報告	7	ギャラリーならやま	16
12月芋煮会・報告	8	ならやまプロジェクト	17
12月・月例研修会	9	行事案内	18,19
11・12月・歴文研修会・報告	10	幹事会報告	20
字遊字感・自然教室チームだより	11	奈良学クイズ・編集後記	21

明けましておめでとうございます

会長 藤田秀憲

新年あけましておめでとうございます。
お健やかに新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年は、「ならやまプロジェクト」「月例研修会」「自然教室」をはじめ「蕎麦クラブ」「歴史・文化クラブ」の各部門に積極的にご参加いただき有難うございました。

お陰さまで、「奈良・人と自然の会」の活動について、各方面から高い評価をいただいています。

さて、「奈良・人と自然の会」が2001年9月24日、奈良県社会福祉総合センター（橿原市）で発足して以来、今年で15周年の記念すべき年を迎えます。

15周年の記念事業については、設立当初からご尽力いただいた川井、阿部両顧問、古川氏、弓場氏を中心に会長、副会長、事務局長、会計で構成される企画委員会で検討を行ってまいりました。

まず、これまでの15年を踏まえ、これからの15年を見据えながら、「奈良・人と自然の会」が、会員の皆さま方にとって生き生きとした活動の場であり続けるための、「活動の指針」の策定を進めています。

会則第3条に、「この会は、奈良県における自然環境の保全と自然環境教育の実践を通じて会員間の親睦と地域社会に貢献することを目的とする。」とありますが、これをより深く掘り下げて、活動の指針には「自然との共生」「地域社会への貢献」「生き生き活動」の3つのキーワードを織りこみたいと考えています。

成案としてまとまった段階で幹事会に諮り、会員の皆さま方にご提示いたします。

次に、「奈良・人と自然の会」の15年間の足跡を、年譜にまとめて当会の活動の歴史と経緯を皆さまと共有し、これからの活動の道しるべとしたい、と思います。

さらに、来年度の1年間にわたり、開催予定の

各部門の行事やイベントに対して、「15周年記念」の冠をつけた企画を実施して、15周年を皆さま方とともに楽しみたいと思います。

行事やイベントの企画運営に皆さま方のご意見と積極的なご参加をお待ちしています。

平成28年度の事業計画の策定をする時期になりましたが、今年は15周年記念事業の他、これまでの活動を発展させて、みんなが楽しめる里地里山の景観の保全・整備に取り掛かりたいと考えています。

ベースキャンプ西側のJR側の立ち木伐採に伴い、JRや24号線からの見通しが開け、隠れ里の風情が一変しましたので、ならやま池とJR敷地との境界付近に花木を、ベースキャンプのテント倉庫や肥料小屋周辺には、柚子やスダチやカボス等の柑橘類で目隠しを兼ね、四季折々の花や果実が楽しめるような植樹を進めてまいります。

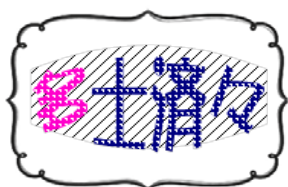
里地里山の保全・整備と活用は表裏一体です。私たちボランティアが楽しみながら活動を継続することが、里山の景観の保全・整備に繋がっています。

会員の一人ひとりが活動を通じて、幾歳になっても、健やかに、好奇心をもって、楽しく活動できる環境を皆さま方とともに作りあげてまいりたいと考えています。

そのためには、お互いが自主性を尊重し、信頼と融和の精神を共有し、力を合わせ活動の輪を拡げていくことが何よりも大切であります。

当会には様々な経歴と才能を持った人材が大勢おられます。その豊かな経験と知識、技能を活動に生かしていただき、更には積極的に当会の運営にもご参画いただきますことをお願い申し上げて、新年のご挨拶といたします。





余人に非ず

小山喜与男 さん

顧問 川井 秀夫

H23 年初夏。私が里山の畑仕事をしていると、突然「今度入会した小山と言います。何をお手伝いしたら良いのでしょうか」、「何んでも好きなことをやっていただければ、あちらにリーダーがいますから聞いてみて下さい」そんなヤリトリが出会いだったと思います。

あれから三年有余、今やエコファームの中核として存在感のある活動を続けておられます。中背瘦躯ながら農具を使う手さばき、腰が据わり、刃先が急所を突く、持続力のある作業ぶりに感嘆しております。先日も牛蒡の深掘りを一緒にやりましたが、こちらは土に負けて挙句には本体を傷つける始末、プロ並みの技にこの方は”余人に非ず”と感得いたしました。ご本人曰く、「少年期に母親の農事の手伝いをしたこと位で、今も自庭で真似事をやる程度ですよ」と涼しいお顔。

現役時は銀行マンとして定年を全うされ、退職後は悠々自適のなか土に馴染む野外活動を楽しんでおられます。自然大好き人間として当会にこられました。六甲の東おたふく山の近くでも同様の活動をされ、行動派として飛び回っておられます。



驚いた事に、近江草津にお住まいで往還する時間を考えると、超人的な活動ぶりが窺えます。「平城山へは大変でしょう」と何うと、帰りは奈良の名所や催し物を見たり、本屋で書物を漁ったり、時には居酒屋で一杯と、結構楽しんで帰りますヨと。

この方の風貌、身のこなしを見ていると、書物や映画、ドラマでみる剣聖・柳生石舟斎を髣髴さ



せて呉れます。あの無刃取りの極意、瘦躯に漲る隙のないオーラ、鋭い太刀捌き、お聞きすれば甲賀のご出身とか、少し

は忍者の血があるのかも(失礼)。一方、なかなかの読書家の様で、最近よく俳句を投句していただいております。観察眼の利いた句を詠まれ、川井さん、こんな俳句の面白い本が出てるんですよと、なかなかのご勉強家でもあるようです。本を読む時間があるんですか？。小山さん。

当会も今年は設立15周年を迎えます。色々な企画が各グループのオリジナルイベントとして登場して参ります。新しい方々のパワーを原動力として素晴らしい記念の年にしたいと考えております。どうかご自愛の上、里山の同志として長く頑張っていただきたいと思います。

里山以外ではお目にかかる事が無いのが残念ですが、酒杯を傾ければ良いお話ができる様に思うのですが、いつの日かそんな機会を楽しみにしております。

「自然に向ひて言うこと無し 閑居して酒杯を酌むことまた佳し」でしょうか。

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

12月3日(木) 活動 雨後曇り時々晴れ 40名

あいにくの悪天候のため、作業開始が一時間遅れるも、全員竹の切り出しや運搬作業に励む。これらの竹は畑や池の柵に使用したり、トイレの目隠しに使うとのこと。あとはこれを使つての大変な作業が待っている。各Gともこれらの作業に当たるが、ほかに花班は午後からマリーゴールドの撤去やチューリップ等の移植に精を出す。また、打ち合わせでは、山の一斉作業延期の件や忘年会実施の件について、再度連絡が行われる。

12月10日(木) 活動 曇り 70名

午前中、第三回目の山一斉作業に取り組み、その後芋煮会を実施。沢山の参加者で盛り上がり、すばらしい交歓の時間になった。里山Gはチップー作業に加え、コナラの株周りの整理等に取り組む。エコGは芋煮会準備のほかイチゴの移植等の活動と大忙し。景観Gは竹林の伐採や佐保自然の森でのチップ散布作業に向かう。ビオ班は水生生物調査、花班はダイコンのはさかけ作業、パト班は第4コース巡回とミーティングと目いっぱいの作業だった。打ち合わせでは、一週間遅れた山一斉作業や本日の芋煮会の段取り等が連絡される。本日から一名新入会員。また、古くなった畑の柵が更新される。

12月17日(木) 活動 晴れ 70名

久しぶりの一斉清掃作業。会員全員がならやま全体に広がり、思ったより多くのごみを集める。これでならやまも全体が美しくなった。正月も無事迎えられそうである。やはり半期に一度はこういった全員一斉作業が必要、と実感した。里山Gはチップー作業や山への道路作りに、エコGはサトイモやゴボウの収穫や肥料やりに精を出す。景観Gは竹林伐採を中心に、ビオ班の池掃除や花班のワタ撤去と花類の移植等と多岐にわたる。またパト班は第2コースの巡回に出る。打ち合わせでは、他県の刈払機の死亡事故の件を説明した後、作業の安全には十分留意することや、本日の一斉清掃作業の段取りに触れたほか、先週入会した会員の自己紹介が行われる。



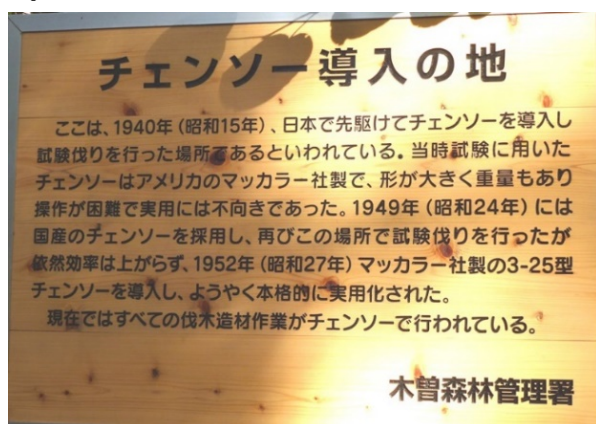
里山グループだより

村上雄之

◆チェーンソー

ブイン、ブイン、ブイン！ここ
ならやまの森にチェーンソーの快音が響き渡る。
ところで皆さん日本で最初にチェーンソーが使用
されたのはどこだか覚えていますか？

2011年10月に木曽開田高原へ研修旅行に
参加した時、自然林の中に「1949年に日本初
のチェーンソー導入の地」の案内板がありましたね。



私が初めてチェーンソーに出会って使ったのは
半世紀前の事で、新入社員の研修時に京都のお寺
で薪割りをした時でした。その後は殆ど目にする
事はありませんでした。

ならやまでお世話になり、久しぶりにチェーン
ソーにご対面。1、2年もするとチェーンソーが
使いたくなり、杉山さんをお願いし安全第一をモ
ットーに指導して貰っています。先輩諸氏の豪快
な伐倒作業を間近に見ながら、恐る恐るお手伝い
をしているのが現状です。

チェーンソーの台数も数年前に数台だったのが、
現在では10台までに増え、チェーンソー仲間も
随分多くなって活気が出て来ました。

昨年の初夏から近隣の山々を含め、このならや
まにも急激なナラ枯れが大量に発生しており、余
りにも多さで誰かどうにかしてくれと思いたく
なる。

伐倒作業はいつも危険と隣り合わせ、作業中に
「ヒヤリハット」を度々体験しています。
皆さん、今年も安全第一でお勤めを。



エコファームだより

中西建夫

◆えんどう豆の植え付けについて

里山の大地・・・？に植えつけた野
菜作物、この厳しい寒さにじっと耐え、早く春の
来るのを待っているようです。

里山で芋煮会が開催されましたが、先日のTV
によると、東北地方では芋煮会は秋の収穫祭的な
もので、盛大・また頻繁に開かれているようです。

隣近所の知り合いが集まって親睦を深めるのに
有意義なイベントです。

畑では大根・白菜・水菜・カブ・ホウレンソウ・
ゴボウ・ネギ等立派に育っています。

美味しいですよ・・・

えんどう豆は越年草で、11月中旬に植え付けし
て収穫は梅雨時の6月ごろ、半年間以上も里山農
園の大地にあつて、取り入れには繊細な注意が必要
とされます。

幹・枝の中心は空洞で、力を入れて曲げるとす
ぐ折れます。また折れたら一週間ほどで茶色に変
色して枯れます。

6ヶ月間以上も、その間手間暇のかかるその一
例を挙げると、霜が降りると苗に藁傘を掛ける作
業を怠らないこと。

また追い肥を切らさないよう注意する。3～4月
春先には苗が活発に成長しますので添え木を必要
とします。

サヤごと食べる絹サヤ(キヌサヤ豌豆)、成熟し
た実を食べる(エンドウ・グリーンピース)。
食物繊維の含有量が、数ある野菜の中でトップク
ラスと聞きます。

また、お酒を飲む前に、ビタミンB1が豊富な
グリーンピースを食べると、アルコールの分解が
スムーズに進み、二日酔いになりにくく、それで
お酒のおつまみにはグリーンピースが適していると聞きます。

酒豪の方には、もってこい
の一品と言えるでしょう。



景観グループレポ

西谷 範子

◆はじめまして花畑です

景観グループの花の部を担当していますが、会報に登場するのは初めてなので、今回はならやまでの役割を紹介します。

ならやまに参加された方はご存知と思いますが、場所はあちこちに分かれています。しかし目的は、ならやまを心地よい風景にすること、通る人々に楽しんでいただくことです。

売り物用の花を栽培しているわけではありません。ですから辺りの野山になじむような木々や花々を植えています。道路沿いには、特に道を散歩する人に、四季を感じていただけるように気配りしています。

花も野菜と同じように連作障害が起こりますので、毎年同じ場所に同じ科のものは植えられません。また水やりや世話は、1週間に一度の作業日しかできませんので、それなりの強さが必要です。奥の方には野山の自生種も含めて、山野草と日蔭の植物を集めたシェードガーデンを作っています。

差し芽で育てた50株ほどの、色とりどりのあじさいが咲き誇る時は、見事な眺めです。

花組の世話係は少人数ですので、常にフル回転の活躍です。世話の甲斐あって、見事に咲き揃った花々を見ていただく時は、嬉しい時です。

自然いっぱいの所ですから、虫や蝶たちの訪問も多く、折角の花も駄目にされることもあります。なるべく農薬など使わないように工夫しています。

次回からは、その花たちを少しずつご紹介していきます。



パトロール班レポ

小島 武雄

パトロールの間に、四季の観察路リーフレットを作りました。ならや

までこの一年間に、野鳥、花木、昆虫、ビオトープ、萌芽試験地、カシナガ被害などを見てきましたので観察路の散策に役立てたいと思います。

適時更新していきます。ならやまの観察路の季節の移りとはとても変化に富んでいて、振り返ってみると、野鳥だけでも、ヤマガラ、エナガ、ジョウビタキ、コゲラなどが、それぞれの季節を待ってやってきています。そしてビオトープにはカルガモが卵を産んでいました。

また季節に応じて、タケノコ、ホダ木の椎茸、木の実や、大きな渋柿の木、栗、冬イチゴ、アケビなど食べる楽しみもいっぱいです。

名前の判らない樹木には、銘板も付きました。

パトロール班では、観察路を安心して歩けるよう、冬作業として、観察路の朽ちた丸太階段の補修をおこなっています。また急な坂道は、掴まって登れるようにロープを設けています。

これから厳しい寒さが続く時期ですが、皆さんの活動の間に、少し余裕を見て観察路を歩いてみませんか？ 何も変化ないように見えますが、落葉した木々も春の支度、よく見ると小さな冬芽が来ています。冬越し準備の雑草のロゼット、何気なく見ているけれど知らないものがたくさんありますよ。

(冬の観察路リーフレット)



ならやま虫だより

菊川年明

◆虫にまつわる諺・言葉(続)

今月は昆虫の閑散期なので、昨年6月号に寄稿した標題の続編にさせていただきます。

*夏の虫氷を笑う

一生がひと夏限りの虫が、氷の話を聞いて笑うということで、見識の狭いことの喩えである。

*一寸の虫にも五分の魂

小さく弱い者にも、それなりの意地や根性があるのだから、どんな相手であっても侮ってはならないという教訓である。

*玉虫色

タマムシは、いろいろの色が混じった美しい昆虫である。それで、すっきりした解決がむづかしい物事に、見方や立場によって、いろいろに解釈できる曖昧な表現を使って決着を図ることを、「玉虫色の解決」などとして使っている。

*螻蛄(ケラ)の水渡り

あまり知られていない諺である。ケラ(写真)は畑地などの土中に棲んでいる昆虫である。コオロギの近縁種で、体長約3センチ、色彩は茶褐色、ミミズや草の根などを食べている。前脚は土を掘るのに適した形をしていて、さながらモグラのような昆虫である。夜に土の下から「ビーーー」という連続音の鳴き声が聞こえたら、声の主はケラである。さて本題であるが、ケラは泳ぎも上手であるが、水中へ入っても直ぐに倦いてしまって、泳ぎを止めてしまうところから、物事が長続きしないことを揶揄して言った諺である。



ならやま花だより

桜木晴代

温暖化の影響か、紅葉は例年より遅く、野ではホトケノザやオオイヌノフグリやタンポポが、山ではモチツツジが咲き、春が来たのかと・・・

それでもならやまの山の木々は、いつものように褐色や淡い黄色に葉を変化させ静かに佇み、季節の移ろいゆく様を楽しませてくれている。いつもは厄介者と思われているヤマウルシも葉を紅くし、小さいながらも枯葉色の観察路の彩となっている。

今年は既にほとんど葉を落としてしまったコシアブラとタカノツメ。ならやまの山の黄に色づく代表はこの二つ。冬には冬芽、春から夏には花の観察を。そして秋には黄葉と果実の鑑賞がお勧めです。

タカノツメ(ウコギ科) コシアブラ(ウコギ科)



名の由来

冬芽の形が鷹の爪に似ていることから

幹から採取した樹脂を漉し、塗料として使用した事から

*どちらも若芽の天ぷらが美味しい。

*タカノツメの落葉が発酵すると、カaramelのような甘い匂いがするとのこと。山で、試してみてください。

(草花) ナズナ、ハコベ、ノゲシ、ヒメジョオン、タンポポ、ホトケノザ、シハイスミレ、オヘビイチゴ、オニノゲシ、オオイヌノフグリ、オニタビラコ

(花壇) スイセン、コギク、キンギョソウ、ナバナ、ムラサキツユクサ、ヘリクリサム、ワタ(実)

(木の花) ヤツデ

(木の実) ソヨゴ、ヒサカキ、マンリョウ、ナンテン、ノイバラ、サルトリイバラ、カキ、ヤブコウジ、センリョウ、カマツカ、フユイチゴ

(草の実) ツルアリドオシ、ヘクソカズラ

平成 27 年度 新蕎麦祭り 報告

蕎麦クラブ 太田和則

11月26日「曇り・所により一時雨！」これは、ならやま活動日に聞きなれた空模様、もう誰も天気など気にもかけません。小雨降る中、ベースキャンプでは、リハーサルで打ち合わせた手順に従って、会場設営、飾りつけ、てんぷら揚げ、釜焚き、済済と祭りの段取りが進められます。

思えば、ならやまに蕎麦を植えて収穫し、全員で新蕎麦の味を楽しもうと始めた新蕎麦祭りも、早や6回目となります。蕎麦クラブでは熱心な蕎麦打ち仲間が研鑽に励み、今や20人を越す腕自慢が揃って、ならやまの誇る技能集団です。



雨中の釜焚き（池田さん）

今年は、新たに「佐保自然の森」の草地を蕎麦の栽培に加えました。草を刈り、花で景観を飾り、蕎麦の収穫もと、一石二鳥の狙いです。収量目標も「夢の100kg」と設定。5月に雑草を刈り、緑肥用のヒマワリを播き、8月に土に鋤き込んで蕎麦を播きました。これには景観グループの皆さんに全面的な協力をいただきました。只々感謝です。

待望の蕎麦の収穫は86.8kg、昨年の50%増です。9月の長雨にたたられ、「夢の100kg」達成は残念ながら来年に持ち越すことになりました。



田辺講師

今年の蕎麦粉は、河村製粉さんと相談して、蕎麦種皮(甘皮)を挽き込んだ石臼挽きにしました。甘みがあり、粘りのある粉ができました。蕎麦を打ち始めてから今年が、一番の蕎麦粉だったと思います。

蕎麦は優れたもの、山間の厳しい環境の中で、たった一週間で芽を出すほど胚芽は栄養のかたまりです。その胚芽を多く含んでいる蕎麦粉は、世界的にも素晴らしい健康食品とされています。

“人間の体に良い”蕎麦は、色々な料理に応用できます。蕎麦きり、蕎麦がきは当然ながら、トマトパスタ、和風やき蕎麦、クレープ、蕎麦ガレット等いろいろ試したら面白いのです。



今年は、ならやま・薪の強い火力の大釜で、蕎麦を一気に茹で上げるようにしました。さて、肝心の「三立て蕎麦」の味は如何だったのでしょうか。川井顧問からは最高のお褒めをいただきました。3杯もお代わりした方、いかがでした？



今年の新蕎麦祭りは、会場の飾りつけや雰囲気、蕎麦を出す段取り、蕎麦の味、味わう人などすべてが一体となって盛り上がりました。ご協力有難うございました。最後に、目に見えないところで準備していただいた皆さんご苦労さまでした。来年は更に良い天気がプラスされ、より盛大に蕎麦祭りを楽しみたいものです。ご期待ください。

ならやま名物

芋煮会

過去最多の参加者集う！

第一回目の「芋煮会」は、入会して一週間後の2008年12月11日(木)、会員20数人が参加して催された。以来8回目を迎えた今年は、12月10日(木)昼、会員70人とビジター2人の総勢72人という歴代最多の参加で開催された。

今年は何故か、天候不順の周期が木曜日となる確率が高く、一週間前から天気予報を注目していた。前々日ぐらいからやっとな降水確率も下がり、曇り空ではあるが、最高気温16℃と凌ぎやすい天候の見込みとなった。

午前中は、芋煮会の準備、ビオトープ、蕎麦関係者以外の全員が、先週雨模様のために延期となっていた「一斉山の日」で山へ。

準備のため、エコファームグループは、堀り立ての里芋を「芋洗い棒」で洗浄する。長時間握って動かしていると掌が痛くなるという欠点があり、少々改良を要するのだが、短時間でしっかりと外側の繊維質の皮が剥がせる。ただし、外の固い皮だけでなく、内部の薄い表皮まで剥ぎすぎないように注意が必要。それは、「ネットリ、しっとり」の美味さの宝庫が表皮の直下にあるからだ。昔の人の生活の知恵は素晴らしい。余談ながら、芋洗い棒の元祖は、松の枝を利用したものであったという。

主役の里芋は、最上川の「甚五右エ門」と越前の「越前大野上庄」という伝統野菜である。種芋の保存や土作り、夏場の適度な水管理、連作回避などに心掛け、有機無農薬栽培に取り組んだグループの皆さんの野菜への愛情と努力の甲斐があり、上々の出来栄えだ。

綺麗になった約200個の里芋、ネギ、大根、牛蒡などの食材は、炊事担当の方々にバトンタッチ。お昼前には、ならやま産の新鮮な有機野菜をふんだんに使い、風味豊かな「ならやま名物・芋煮鍋」、「大根焚き」、「黒米おにぎり」が全て整った。

正午丁度、開会の挨拶、続いてこのイベントに

駆けつけていただいた佐保川地区自治連合会会長の金野秀一さんから、ならやまの活動を評価いただいた上で、このフィールドを地域の子もたちの活動の場としても活用してほしいとの挨拶があった。

恒例の「桜島大根」重量当てクイズで盛り上がる。正解は、横綱大関クラスの二株の合計が10.2kgプラス9.1kgで計19.3kg。見事ピタリ賞で第一位となられたのは桜木晴代さんで、ご自分の頭より大きい桜島大根をゲット。以下ニアピン賞の7人の方々にも桜島大根がプレゼントされた。今年は、一株の最大重量が初めて10kgに到達した。発芽後に害虫の被害もほとんどなかったからだが、来年は15kgを目標にしたい。

そして、いよいよ本番の「芋煮会」スタート。あっという間に鍋の前にマイ茶碗持参の長蛇の列ができる。箸が進むにつれて「美味しい」「美味しい」の声がそこここに響く。お代り希望が続出し、用意した約100人前をほぼ完食。平均年齢〇〇歳とはとても思われない旺盛な食欲だった。



最後まで穏やかな天候で絶好の芋煮会日和の中、「旬菜旬味」を十分に堪能していただけた。冬の一大イベントも和気藹々の内に無事終わることが



できた。調理など準備に力を尽くしていただいた方々初め皆様方に感謝申し上げます。

有り難うございました。

(鈴木末一)

12月 月例研修会 忘年ハイク 一休寺から甘南備山を歩く

12月8日暖かい青空の下、24名の参加。
賑やかに新田辺駅をスタート、京田辺駅からの人
と合流。車道を注意しながら棚倉孫神社へ向かう。
神社で資料配布、コース説明をする。

＊棚倉孫神社（たなくらひこ） 境内には秋の五



穀豊穰に感謝する瑞饌（ず
いき）神輿が飾られている。
ずいき、大豆、小豆、玄米、
唐辛子等、20種類以上の
野菜や穀物が神輿一面に貼り付けられ、その細
かい手仕事に感心し皆さん見入っておられる。
ならやまでもお神輿作りましょうか。

＊一休寺 山門からのモミジの紅葉と苔緑は
とても風情があり美しい。川井さんから一休禅師
の人となりをお聴き、また方丈庭園では枯山水庭園
の静謐の中に身を置きながら、和尚様の話に耳を
傾ける。狩野探幽の襖絵、一休禅師木像など鑑賞
した後、境内を自由散策する。



＊登山口～甘南備山 田畑を抜け、なだらかな
舗装道を登って行くと芝生広場に着き、ここで昼
食を摂る。その後さらに山頂をめざす。タマミズ
キの赤い実、陽に透けるコナラ、タカノツメの黄
葉、モミジ、ドウダンツツジの紅葉を眺めながら
楽しいお喋り。展望台からは京都盆地が開け比叡
山、愛宕山、京都タワーの大パノラマが！！
頑張った山登りへのご褒美ですね。

頂上の甘南備神社でならやま活動の安全を祈願。
山道を下り2時50分に全員無事に新田辺駅に帰
着。お疲れ様、皆さん楽しんでいただけたでし
ょうか。その後、忘年会会場へと向かいました。

（山中箒子）

平成27年度 忘年会 報告

今年も（曜日は違えど）昨年と同じ平成27年
12月8日（火）、場所も同じ奈良ロイヤルホテル
にて、当会の忘年会を盛大に開催致しました。

6卓の円形テーブルがセッティングされた大ホ
ールにならやまの善男善女43名が集いました。



うち半数以上の
みなさんは朝から
の月例ハイキング
にも参加され、引
き続いての行事参
加となりましたが、

ご覧の通り、皆さん元気滂刺、大はしゃぎ。

会場内からは、「忘年会はこうで無けりや、、、」
の声も聞かれ、みなさん大満足のご様子でした。

宴会は中華料理を中心としたフルコース、ビー
ル、焼酎のアルコール類も飲み放題。更にそれだ
けに終わらず、会員有志の方からは日本酒5本、
ワイン、焼酎各1本の差入れもあり、どんどん皆
さんのメートルも上がります。

日頃はそれぞれの持ち場に分れての作業が多く、
会員数の増加と共にお互いのコミュニケーション
もなかなか取り辛いと言った面も出て来ていま
すが、今回の忘年会は素晴らしい会話の場となり
ました。知らぬ間に皆さん次々と席を離れ各テー
ブルを渡り歩かれ、楽しい会話が飛び交いました。



後半は気持ちの高揚を代弁するように自然と
カラオケタイムに移行、気が付けば会場はテー
ブル対抗から男女対抗の体をなし紅白歌合戦その
もの。

来年も当会にとって良い年になる予感を感じさ
せる素晴らしい忘年会となりました。

ご参加いただいた皆さん、有り難うございま
した。この調子でみんな、明るく楽しい年を迎え
ましょう！！

（事務局：辻本信一）

11 月・歴文研修会

紅葉の幻住庵・永源寺 聖武帝の軌跡を訪ねて

11月24日。歴文のチャーターバスはいつも満席。いつも好天、いつもご機嫌。今日は少し曇り空ながら定時に西大寺駅を出発。京滋バイパスを抜け近江路に入り石山へ。紅葉も旬を迎え道中の秋風情を楽しむ。

幻住庵。奥の細道を終えた松尾芭蕉がこの草庵に入り四か月滞在、自炊しながら俳諧の奥義を纏めた名著「幻住庵記」を完成させる。風雅を愛した草庵の雰意気を堪能する。

名神高速道を八日市まで駆ける。湖東三山の紅葉の名所・**永源寺**を訪ねる。長い石段を登ると古色に満ちた伽藍に圧倒される。残念ながらお目当ての紅葉は期待外れ、季節変動に恨みを残し下山。

昼飯の永源寺そばは旨かったですか。いやいや、なら山そばには及ばないヨ。そんな声がヒソヒソ。

短日を見越してそうそうとリーターン。帰路は聖武帝が平城京を抜けだした謎の行動を、遺跡を辿りロマンに浸る。**紫香楽の宮跡**、大仏造立が始まった場所とされる叢林の中に礎石が残る程度で、宮跡はこの地の他所にあるらしい。岩本先生のご高説を伺い大仏造立の顛末を興味深く拝聴する。

奈良に向かって和東町に入る。見事な円墳が近づく、**安積親王墓**である。周囲は茶畑に囲まれ、夕日に輝く景観は私の経験でも一番の美しい姿であった。

最後は幻の都となった**恭仁京跡**。一条の夕日が射し思わず石柱に集まり記念撮影。芭蕉の侘び、古刹の寂び、聖武帝の謎、安積親王の悲劇、など歴史の深遠なロマンに酔う一日であった。



(川井秀夫)

12 月・歴文研修会

座学と押熊・中山・秋篠の 地元歴史探訪

12月15日。午後の降雨率70%。予報は未定なり、なんと終日雨の洗礼を受けず暖かい日差しにも恵まれて、正にミラクル。

今年の恒例行事は永井幸次氏の紹介で、地元の押熊町界隈を歴史探訪する。午前には押熊町水利組合会館にて座学。講師は岩本次郎氏・中井弘氏（吉川利文氏は体調不良で欠席）の熱弁を拝聴する。

演題は「**天然痘の歴史検証**」岩本氏。「**南京事件の真相**」中井氏。両氏の熱い語りにあっという間の2時間が過ぎる。それぞれの時代に蔓延した疫病の脅威、ウイルスの恐怖。現代にも続く自然と文明の相克に、人類滅亡の危機感すら想像してしまう。

南京大虐殺の真相は、日中の外交上の今日的課題だが、時代と共に藪の中に葬られて行くのだろうか。ただ、戦争の愚かさ、悲惨さを後世に伝えて行かねばならない。そんな思いを痛感する。

「**押熊**」この地に熊がいたような町名。平城京の北端に位置したことから「隈」と呼ばれ「押」は「忍」から「押」に転化したと言う。

午後は野外へ飛び出し、押熊町から中山町・秋篠町と探訪の足を進める。室町期の八幡信仰の古社を二つ、皇位継承に纏わる悲劇の忍熊・簀坂王子の双墓、常光寺の湛海作の秘仏鑑賞など、奈良・平安・室町期の歴史の痕跡に印象深い体験であったと思う。

案内役の永井幸次さん、講師の岩本・中井両氏、途上レクチャーの古川祐司氏、反省会の設営に奔走願った池田富子さん、ご参加の皆さん有難うございました。

最後にこの地を訪れた西行法師の歌を披露して今年の締めと致します。

秋しのの外山の里や時雨らん

伊駒の嵩に雲のかかれる

(川井秀夫)



ラグーマンの心意気

今秋のラグビーW杯の快挙。
世界の強豪「南ア」を下し、

日本ラグビーの存在感を示す。そんな余韻に浸りながら年の瀬を送り新年を迎える。

思い返せば、私も昭和20年代後半の六年間、青春期の真っ只中、学業もそこそこに楯円のボールを追いかけて厳しい練習、激しい対抗試合に明け暮れた日々を思い出す。敗戦の余韻が残る中、ラグビーはまだ「闘球」と呼ばれた時代である。

男らしい球技に憧れ飛び込んだものの、今の様に科学的、医学的な管理社会ではなく「走れ、走れ」で、意識朦朧となればバケツで水をぶっかけられる。練習が終わればまた外周道路をランニング。月が照る夜道を家路に就く頃は半死半生の有様であった。

そんななか、勇気づけられた言葉がある。

「ONE FOR ALL・ALL FOR ONE」
一人は全員の為に、全員は一人の為に、である。

今でもそうだが、当時は冠（スポンサー）大会を嫌い、トライを決めても本人は勿論、他の団体競技に見られる様な派手なパフォーマンスは見られない。利己心功利心のない素朴な精神が集団の根底に息づいている。

もう一つ、**ノーサイドの精神**がある。

試合が終われば敵味方なし、我が友よ、である。大試合では汗臭いジャージーを交換し合う風景がみられる。発祥の地イングランドの国民性であろうか。

キックしたボールはどちらに跳ねるか解らない奇妙な動きをする。これを「**人生の縮図**」と言ってきたが、正に歩んできたこれまでの人生を振り返ると苦笑する事が多い。今 晩年にあって若い人たちと集団の一人として老骨に鞭うつ日々だが生涯を終るまで、この精神を持ち読けたいと、今回の快挙にあらためて心に刻んだ次第である。

(川井秀夫)

自然教室チームだより

12月 OP 自然観察会 実施報告

「春を待つ植物たち

－初冬の私市植物園の散策－」

12月2日（水）素晴らしい青空のもとで、私市植物園の自然観察会を行いました。参加者は9名とやや少なかったですが、後藤さん、佐藤さんの案内で内容の濃い楽しい観察会となりました。

朝の挨拶のあと、すぐ出てきたチャンチンモドキの試食でまずびっくり、ついで辻本(信)さんによるドングリについての分かりやすい解説、これにもイチイガシの試食がありました。

ついで、すぐ隣のリンボクについて、佐藤さんが名前の由来についてライターを使って説明してくれました。初めての体験でした。更に後藤さんによるビナンカズラの解説が続きました。たくさんさんの魅力的な赤い実がとてもおいしそうでした。実際には試食はおすすめではないようです。

これを皮切りに、様々な秋の木の实や紅葉・黄葉、厳しい季節に咲く可憐な花々、そして冬芽のけなげな姿を、五感を使ってゆっくりじっくり観察して回りました。



昼食の後はイチヨウの葉のキツネやシカ、笹の葉の飴、ホウの葉のヒコーキなどの自然遊びを楽しみました。

午後はまず平岡さんによるネイチャーゲーム「フィールドパターン」を行い、様々な形の自然物探しに夢中になりました。自然界にはいろいろな形があることにびっくりしました。

その後もいろいろな自然を楽しみながら2時過ぎに終了しましたが、参加者一同「とても楽しかった」「いろいろな秋の実に触れられてよかった」「準備がすごい」「素晴らしい植物園にまた来たい」「今後もこんな観察会に参加したい」などといった感想を語ってくれました。 (倉田 晃)

鳥シリーズ 1月号

ライチョウ 小田久美子

「猿が雷鳥を捕食!」全国的なニュース

8/25 午前 11 時過ぎ。北アルプスの 2800m の東天井岳の尾根で観察をしていた研究者チームがカメラを構える前で衝撃的な現場が目撃されました。

一頭のニホンザルがライチョウの母子に近づき、動かないヒナに忍び寄り手で素早く捕まえて逃げました。図らずも確認したサルによるライチョウの捕食。下山後の記者会見で「サルやシカなどの里山の動物が高山帯へ侵入している。早急に食い止めなければ貴重な高山の自然が破壊され、そこに棲む**特別天然記念物のライチョウ**の絶滅に拍車がかかる」と、訴えました。

ライチョウの世界的な研究者中村浩志(信州大学名誉教授)さんは若き日羽田健三教授(当時信大教授)のライチョウの調査を手伝う一方でカッコウの托卵などの研究に没頭する野鳥ボーイでした。

ライチョウは何故貴重種なのか

ライチョウは、北半球の北極を取り囲む地域に広く分布しています。日本のライチョウは約 2 万年前陸続きだった大陸からやって来て、列島が大陸から切り離された後世界の最南端にポツンと分布する孤立集団で、氷河期が終って温暖化が進み、本州中部の高山に逃れることで現在まで生き続けている**奇跡の鳥**なのです。



冬羽 (撮影：荒井) 中間羽



2012 年長野県松本市で「国際ライチョウ・シンポジウム」が開催され、20 カ国から 86 人の研究者が集まった会議の後、乗鞍岳と北アルプスで観察会をした時、外国の研究者が最も驚き感動したことは、ライチョウが人を恐れないことと、外国ではとっくに失われた高山植物のお花畑が、今も手つかずの状態に残っていることでした。

心配なのは温暖化

ライチョウの減少の原因は天敵、捕食者の増加です。かつては、イヌワシなどの大型猛禽類や高山に生息するイタチ科のオコジョくらいでしたが、現在はキツネ・カラス・テン・さらにサルまでが高山に入り込みライチョウを捕食するようになりました。

更に心配されるのは温暖化の影響です。日本最北の生息地、新潟県の火打山(2462m)は北アルプスほど標高が高くなく、温暖化でハイマツの樹高が低くなり、営巣場所や高山植物が自生する採餌場所が目に見えて減っています。特に南アルプスではシカが高山帯の全域に進出し、お花畑を食い荒らし、ライチョウの生息環境そのものが破壊されつつあります。

30 年前は南アルプス全体で約 700 羽だったのが、現在では 300 羽まで減少しています。オオカミや山犬などの天敵もいなくなり、加えてハンターの数が減少した結果シカやサルが人間を恐れなくなって、かつてのような人と野生動物の緊張関係も無くなり、数が増え続け食べ物を求めて行動範囲を広げています。

「神の鳥 雷鳥」の保護

外国では狩猟鳥ですが、日本では山岳信仰と結びつき「神の鳥」として大切にされたために人を恐れません。私たちは、絶滅した日本のトキやコウノトリが残した教訓に学び、早急に対策をとらなければいけません。現在、2000 羽弱。中村さん率いる研究チームは、毎日夜はケージに母子を誘導し天敵や悪天候から守ってやり、朝は近くに放してやるという活動を 13 年続けて来られています。「ライチョウは自然との共存を基本とする日本文化の象徴。自然保護のシンボルのこの鳥を、何としても守り抜きたい」と 68 才の現在も精力的に活動をされています。中村浩志さん



(上の写真は朝日新聞より)

★探鳥会は 2/23(火) 天理の白川ダムへ行きます
詳細は 2 月号に掲載します。多数のご参加を。

やさしい昆虫講座 44

「何処で冬を越そうか? -2」

木村 裕

「新年明けましておめでとうございます。待ちに待った暖かい春が目前ですよ。目を覚まして出動準備をしてください」 ならやま地区チョウ・ガ連盟会長の新年のお言葉でした。

チョウチョウやガさんの冬越しはどうなっているのでしょうか? 幼虫で越すもの、成虫で越すもの、蛹や卵で越すものなどいろいろなタイプがあります。

ならやまに住み着いているジャコウアゲハさん、ミカンの葉を食べるナミアゲハさん、ダイコンの葉っぱを失敬するモンシロチョウさんなどは、気温が下がると餌場を離れて、近くの住宅の壁や軒下、柱、石垣、樹木の幹などの上で蛹の状態を冬を越します。寒風吹きさらしの餌場の葉上では寒さもさることながら吹き飛ばされる危険もあって安全地帯へ移動します。備えあれば憂いなし、よく考えてますね!

テングチョウなどタテハチョウさんの仲間は、成虫のチョウの状態でも北風の吹きつけない建物の陰や樹の隙間などの安全地帯で居眠りした状態で冬を越します。それゆえ3月になって暖かくなれば早々にひらひらと飛び出します。



近年増えているスマレを餌とするツマグロヒョウモンさんは、冬でも餌が潤沢にあることもあり幼虫の状態でも冬を越します。寒い時期はじっとしていますが、暖かい日には軽く運動をして葉っぱも齧ります。春先にひらひら飛びまわっている小さな赤っぽいベニシジミさんも餌場のギシギシのところで幼虫で冬を越します。

小さなミドリシジミの仲間は、寒さに弱いので

木の芽の周りに産みつけられた卵の状態でも冬を越します。

地球温暖化はチョウチョウの世界にも影響がでています。私の子供の頃には南九州しか住んでいなかったナガサキアゲハ、モンキアゲハ、イシガキチョウなどの南方系のチョウチョーさんが、奈良県でも普通に見られるようになりました。冬越しができるようになったのですね。



春にウバメガシの垣根やツツジに発生する黒っぽい毛虫、マイマイガさんは夏過ぎに木の枝に数百個の卵を産みつけますが、超肥満体のお母さんは動き回るのが億劫か手近の住宅の壁や柱などにも産みつけます。卵塊はその表面をお母さんの体毛で覆い隠されるので灰色の塊にしかみえませんが、純毛の寝袋と厚い殻に守られた卵は厳しい寒さでもびくともしません。



マイマイガの親戚のマツカレハはマツにつく灰色のケムシで、幼虫のケムシの状態でも冬を越します。冬でも葉や枝の上に寝転んでおり、寒い日はじっと寒さに耐えています、少し暖かいと起きだして葉をボリボリ齧ります。

ミノムシさんは暖かい純毛?の寝袋にくるまっていますが、冷たい北風はこたえるようで入り口をしっかりと閉じて隙間風の入らないようにして幼虫のまま冬を越します。

チョウ・ガの皆さん、冬越しにはあの手この手とそれぞれに知恵を絞っているようです。



迎春登拝 三輪山の神々

歴史文化クラブ
古川 祐司

三輪山の一番美しい姿が眺められる奈良盆地の南と西の地は、古くから国中(くんなか)とよばれ、初詣は三輪さんへお詣する風習があります。ご祭神の大物主大神は国造りの神、産業、方除、医薬、酒造など人間生活全般の守護神として広く信仰されています。歴史文化クラブでも、有志が新春初行事として三輪山に登拝して、行事の安全と発展を祈願することにいたしました。

大神神社では三輪山そのものがご神体で、本殿がありません。拝殿の奥に三輪鳥居があり、そこから先は「甘南備」で禁足地となります。これはわが国で最も古い祀りの姿で、当社のほかにも、古い神社で本殿のない例が多くあります。石上神宮では「御本地」という禁足地があり、今の本殿は明治の造営です。春日大社には神護景雲2年造営の南向きの本殿がありますが、それ以前は「御蓋山」をご神体として祀り、古地図にも建物のない西向きの「神地」があったことが認められます。

三輪山の登拝では、まず摂社の狭井神社でお祓いを受けます。ここから先は禁足地で写真撮影や飲食は禁じられます。山裾に「辺津磐座」、中腹に「中津磐座」、頂上には大物主神の依代「奥津磐座」があります。かつて奥津磐座には杉の巨木が鬱蒼と立並び、苔むした磐座(いわくら)がいかにも神秘的でした。しかし、平成9年9月22日の台風7号で杉の巨木のほとんどが倒されて、見晴らしがよくなった反面、雰囲気は全く違ったものになっています。

三輪山の磐座の岩は「角閃斑礫岩」で大量に鉄を含んでいます。頂上から1/3はこの岩の層で、狭井川からは良質の砂鉄が検出され、周辺の兵主神社、穴師という地名からも鉄の生産との関連を指摘する(川上邦彦氏)説もあります。

ここで三輪山の祭祀について考えてみます。古くは、日の神や雨をもたらす雷神龍神を祀ったもので、起源は弥生あるいは縄文まで遡るとされています。

山頂に日の神を祀る高宮神社があり、延喜式に神日向(みわのひむかい)神社の名が残っています。

3世紀後半、初期ヤマト王権が成立すると、大王自ら三輪山の祀りを行ったと思われます。崇神天皇紀に「倭成す大物主神の醸みし酒」という歌がありますが、「ヤマト」とは三輪山の麓に広がる国を指し、「国づくりの神」が大物主神です。

崇神天皇紀6年に、疫病が流行して人々の大半が死んだり流亡したりする危機が発生します。神意を慮って、天皇は日の神「天照大神」を笠縫邑に、地主神の「倭大国魂神」を市磯邑に分祀しますが効果がありません。茅渟縣陶邑(ちぬのあがたのすえむら)の大田田根子(大物主神の子)を捜し出して、天皇の代わりに奉祭させることで、漸く疫病は終息します。ここで大物主神は国づくりの神から強い崇りの神と神格が変化します。

因みに、三輪山の祭祀遺跡の出土品は4世紀の後半まで遡りますが、中でも5世紀の須恵器が数多く発見されて、この説話を裏付けています。

大神神社を祀る太田田根子の子孫「三輪君」が歴史に登場するのは6世紀後半です。欽明天皇の時、仏教に対抗して三輪君逆(さこう)は大神祭(4月祭)を始め、次の敏達天皇に信頼され「悉く内外のことを委ね給いき」と日本書紀に記されています。天皇の殯宮の守備隊長として皇后の炊屋姫(のちの推古天皇)を守って活躍します。

壬申の乱では、三輪君武市麻呂が大活躍してその功で朝臣に叙せられますが、持統天皇の農繁時の伊勢行幸に職を賭して諫めたことで有名です。

記紀神話には、出雲の大国主命が自分の和魂(にぎたま)を大物主神の名で三輪山に鎮めたと記します。これについての考察は、「26年12月の青垣春秋」に紹介しました。天つ神の代表の天照大神が伊勢国に遠ざけて祀られるのに対して、国つ神の大国主命・大物主神が、ヤマトの中心の三輪山に鎮座して、人々の信仰の中心になったことはなかなか興味深いことです。

恭仁京や柿の実高く夕焼空

坂東久平

歴史十一月例会。宮跡に着くと曇天の空が晴れ上がる。正にミラクル。夕焼け空が眩い。柿の太木に木守柿が照り映える。秋の挽歌が聞える。

幻住庵に蕉翁偲ぶ紅葉影

坂東久平

幻住庵は芭蕉が名著「幻住庵記」を完成させたところ。草庵に紅葉が映える。自炊生活の名残り「とくとくの泉」。風雅を求めた翁の陰影が見え隠れする様。

紅葉して旧跡包む彩模様

鈴木末一

永源寺を始め紅葉の名所を堪能する。自然が織りなす造化の素晴らしさ。聖武帝の大仏造立の軌跡を追ひ、古今変わらぬ自然美。

石たたき之首傾げたる落葉みち

鈴木末一

「石たたき」はセキレイの俗名。道路の石面を啄む姿から。石と落葉の対象の妙。石はカチカチ、落葉はフカフカ。戸惑うセキレイ君の怪訝な表情が俳諧味を添える。

泰然と紅葉の径に古刹立つ

八木順一

この時季、人の目は紅葉。黙然と立つ古寺は脇役なのか。相對の景を愛でたいもの。そうか、仏様も紅葉狩にお出ましなんだ。

柿熟れて佐保の日暮れに耀けり

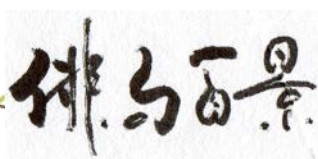
小山喜与男

里山を象徴する柿の大樹。日暮れの日矢にあか・あか・あか。熟れてシブが抜けると鳥の好餌。今が見頃ですナ。

山粧ふ見よ曼荼羅のイデア界

羽尻 嵩

作者は哲学がお好き。「イデア界」の措辞は私もビックリ。哲学者プラトンの哲理から出た言葉。モノ・形の意。ジリさん流石ですね。



監修 川井秀夫

杖頼む色葉の坂の幻住庵

古川祐司

作者は杖をついての安全運転。紅葉に癒されて足の不自由も忘れがち。幻住庵の雰意気を絶賛。芭蕉の芸域に遠からじ。

永源寺のゆるりと歩むしぐれ坂

古川祐司

今年は色合いがもう一つ。鈴鹿の山からしぐれ雲。豪壮な堂宇に圧倒される。紅葉の色褪せた衣が心残り。

天下取る冬の皇帝ダリアかな

西谷範子

里山の外来種の花木は賛否が分かれる。今や国際化の時代、余り拘らなくても良いジャン。「ダリア」は夏の季語。作句が難しい。「天下取る」の措辞が、異様な姿をイメージさせる。

どこまでも生駒の嶺の紅葉晴

西谷範子

生駒山地。全長30キロにも及ぶ。近鉄 南生駒線の車窓から見る錦秋の景観は、さながらに移りゆく名画の美術館。

紫香樂の帝の憂ひ秋しぐれ

青木幸子

聖武帝の謎の軌跡を辿る。折しもしぐれ模様。帝の憂愁がロマンをかきたてる。女性らしい想像力に脱帽。

一年の泣くも笑ふも年忘れ

青木幸子

忘年会。40人余の盛会。皆さんそれぞれの思いが脳裏をめぐる。アデュー 2015年。どうぞ良いお年を・・・

正面を見れば皆る焚火の輪

川井秀夫

里山、活動前のひととき。井戸端ならぬ焚火端。下世話な話題が弾む。もう正月でんナ。また年取りまんナ・・・さあ、さあ、仕事・仕事。



▲鈴木末一・水彩画「幻住庵」



▲有元康人・オイルパステル画「ポインセチア」



▲小島武雄・陶芸「おすまし猫」



▲八木順一・水彩画「大阪港倉庫群にて」



▲羽尻 嵩・墨彩画「春よ来い」



▲永井幸次・油絵「薔薇」

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理せず・諦めず
活動予定日

1 月	7 (木) 28 (木)	14 (木)	21 (木)
2 月	4 (木) 25 (木)	11 (木)	18 (木)

◆ 場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 20 haの里山林地（県有林）

◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆ 終了予定：午後3時

◆アクセス

① J R 平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分

② 近鉄奈良駅：バス 1 3 番乗り場 115 系統
8：28 発、高の原行き（平日）

③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統
8：36 発 J R 奈良駅西口行き（平日）

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩 7 分

◆ 携行品など：弁当、飲み物、
軍手（作業用具は現地で用意）

◆ 環境保護のため、お椀、箸、
コップなどは各自ご持参下さい。

◆ 連絡先：八木 順一



里 山 Gr

1/7 新春初出式

コナラ植樹の準備



14 一斉山の日（部分皆伐地の整理）

皆伐地での地拵えとコナラの植樹
薪玉集積、薪割り、同玉伐り

21

椎茸櫓木の玉伐り ホダ場づくり

28

椎茸櫓木の玉伐り ホダ場づくり

エコファーム Gr

1/7 新春初出式

エンドウ支柱立用竹取り
冬野菜など収穫



14 一斉山の日（部分皆伐地の整理）

冬野菜など収穫 水田の除草（コナギ）
里芋跡地チップ入れ

21

大根、サツマイモ跡地のチップ入れ
水田にチップ入れ 水路整備
冬野菜など収穫

28

冬野菜など収穫
エンドウ支柱立 ネット張り 追肥

景 観 Gr

1/7 新春初出式

彩の森竹林 伐採

ならやま池生物調査と水抜き、ドジョウ池整備
七草採種・観察、霜障害手当て
会員向け観察路案内（2 コース予定）

14 一斉山の日（部分皆伐地の整理）

彩の森竹林 伐採

ならやま池の整備、ドジョウ池の整備
ドイツアヤメ草取り、山野草園整備
観察路の丸太階段補修

21

彩の森草刈り清掃（午後）

午前、ならやま池・ドジョウ池泥除去作業（協力
要請） 道路際花畑の移植・整備、寒肥
観察路安全パトロール（午後）

28

BC 周辺の草刈り清掃

ならやま池泥あげ作業（予備日）
シェードガーデン整備、山野草園整備
観察路表示案内杭の補修





行事案内 part 1

平成28年 新春講演会

里山は重要な生態系

～ “万葉の里” にマツタケの夢を見る～

日 時：平成28年1月23日(土)

13:30～15:30

会 場：奈良市保健所・教育総合センター

奈良市三条本町13番1号

はぐくみセンター1階

※JR奈良駅西口より南へ徒歩4分

講 師：京都大学農学博士 吉村文彦先生

1940年京都市生れ。京都大学大学院農学研究科博士課程修了。微生物生態学。元岩手県「岩泉まつたけ研究所」所長。京都「まつたけ山復活させ隊」代表。

演 題：「里山は重要な生態系」

～ “万葉の里” にマツタケの夢を見る～

・吉村先生は、「里山を何とか再生したい」「生物多様性を復活させたい」という強いお気持ちを永年持っておられます。京都大学で微生物生態学者として、里山の代表的な樹林である「アカマツ林」をフィールドに、「アカマツ」と深い共生関係を持つ「マツタケ」と「土壌細菌」の関係を長年研究されてきました。更にその研究を「マツタケ」の林地栽培という実践につなげようと取り組んでおられます。

・京都での研究生活の後、1990年4月から15年間、岩手県岩泉町が創設した世界唯一と言われた「マツタケ」の専門研究施設「岩泉まつたけ研究所」所長を務められました。それまでの基礎研究で培った知識や成果を基に、岩泉町のまつたけ産業を飛躍的に拡大されました。

・「岩泉まつたけ研究所」が役割を終え、2005年3月に閉鎖されたのを機に、京都に戻られ、同年6

月より京都市郊外の岩倉の里山に、市民運動として「まつたけ山復活させ隊」を立ち上げられました。このフィールドの里山では、年約50回、各回25人～30人の市民ボランティアの方々が活動されています。この10年の発展の中で、間伐、表土のかき出し等の基本作業から小屋作り、作陶用の窯作り、稲作、お茶栽培まで行っています。我々のならやまフィールドとほぼ同じような活動をされています。

「マツタケ」は、「アカマツ」との本当に微妙な共生関係の中で、自然環境が十分に保たれた里山にしかできない大変難しいキノコのようなのです。

「マツタケの復活」は、まさに「里山の再生」に繋がるとの信念で活動されています。

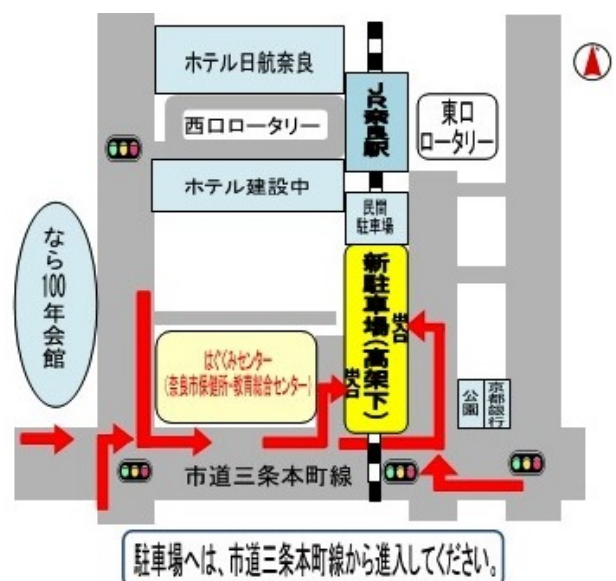
・一方で「マツタケ」は1千年以上にわたって日本人に愛されているようです。奈良時代の歌集・万葉集にも『高松のこの峰も背に笠立てて満ち盛りたる秋の香のよさ』と歌われています。その頃は日本の山野もいい香りに包まれていたのですね。

先生から、「里山の再生」と「マツタケ復活のロマン」と、新年にふさわしいお話がお聴きできると思います。

たくさんの方のご聴講をお待ちしています。

(連絡先・寺田孝)

奈良市保健所・教育総合センター





行事案内 part 2

歴文クラブ 1 月度研修会

大神神社初詣と三輪山登拝

平成 2 8 年の初行事は大神神社にお詣りします。御祭神は「大物主大神」、配祀は「大己貴神」「少彦名神」です。大三輪の神は国作りの神様であり、また医薬・酒造・方除等人間生活全般の守護神として、大和国一宮、三輪明神と親しまれ、広くそのご神威を仰がれています。当日は拝殿に昇殿し、古来より行われてきたように拝殿の奥に建つ「三ッ鳥居」を通してお山を拝む予定です。

その後「狭井神社」から三輪山に登ります。登り 1 時間、下り 4 5 分ほどですが往復 2 時間半を予定しています。イヌザンショウの大木の群生など珍しい植生が見られます。麓から「辺津磐座」(少彦名神)、「中津磐座」(大国主神)、頂上には「奥津磐座」(大物主神)、高宮神社(大物主の御子・日向御子神)が祀られています。

下山後、少彦名神の「磐座神社」、知恵の神「久延彦神社」、大田田根子の「大直彌子神社」を参拝し、昼食は鳥居前の「福寿堂」で「三輪そうめん」と「三諸の神酒」で簡単な新年会とします。

日本書記に麓の高橋邑の活日(いくひ)を大神神社の酒造りとしたとあり、大田田根子に大神神社を祀らせたその日、活日は神酒を造って崇神天皇に奉り、次の歌を詠みました。「此の神酒は 我が神酒ならず 倭成す 大物主の醸みし神酒 幾久幾久」 大物主が造った神酒と称えています。

実施日：1 月 1 2 日(火) 雨天決行(登拝は中止)

集合場所：JR 三輪駅 駅前広場

集合時間：午前 9：10

交通：(JR 桜井線) 奈良駅発 8:34—三輪 9:02

(JR 桜井線) 桜井駅発 9:06—三輪 9:09

(近鉄) 西大寺 8:25—天理 8:46 (乗換)

JR 天理 8:51—三輪 9:02

*天理駅では乗換時間が短く、近鉄は先頭車両に乗車

持物等：軽登山の服装・靴、水筒・雨具・杖

担当/連絡先：弓場・中井・古川

旬 菜 旬 食

ならやま

エコファーム料理

エコファームの大根は有機栽培・無農薬なので、我が家では大根の葉も美味しくいただいています。

*大根葉とちりめんじゃこの掻き揚げ



◆材料 (2 人分)

大根の葉 (中心の柔らかい部分)	30～40 g
パプリカ、ニンジン	少量
ちりめんじゃこ	適量
天ぷら粉	30 g
冷水	70 ml
揚げ油	適量

◆作り方

1. 大根の葉 (中心の柔らかい部分) とパプリカ、ニンジンを細かく刻む。
2. ボールに天ぷら粉と水を入れ、天ぷらの衣を作る。
3. 刻んだ大根の葉・パプリカ・ニンジン・ちりめんじゃこを加え、混ぜ合わせる。
4. 鍋に揚げ油を入れて熱し、170 度位になったら、(3) をスプーンですくいながら入れて、揚げます。
5. ひっくり返して、両面衣が固まったら、揚げる。
6. キッチンペーパーなどで、油を切ってから盛りつけ天つゆなどでお召し上がりください。

◆外側のかたい葉

茹でて、細かく切り、フリーザーパックに平に入れ、冷凍しておき、味噌汁や焼きめしの彩りとして使います。

(ピンチヒッターで・坂東)

平成27年・12月度幹事会報告

日時：平成27年12月1日(木)17:00～19:30

場所：奈良市中部公民館

出席者：幹事20名、顧問1名（欠席1名）

議事：

I 会長挨拶

- 11月27日「古都保存法のあり方」検討小委会開催。出席関係者「ならやま」視察。高評価。
- 28年度助成金の考え方説明

II 会計・事務局より

1. 会員数前月より1名減にて149名。
- イベントキャップ:1月7日より会員に配布
- 会計報告:11月度収支報告了承される。

III 活動・行事関係に関わる課題・懸案・確認事項

- 3ヶ月スケジュール、当月スケジュールの検討確認と変更有無の確認
- 2月27日(土)GGイベント、雨天の場合3月5日(土)に延期
 - ・2月号会報誌配布:3月3日(木)
 - ・新入会員歓迎会:3月24日(木)
- ならやまプロジェクト関係
 - ・備品調査実施中。
 - ・12月17日を一斉清掃の日とする。
- 月例研修会（報告と予告）
- 自然教室（報告と予告）
- 歴文研修(報告と予告)
- 新そば祭り 実施報告

68名参加大好評であった。
剰余金は、ほのぼの基金へ入金。
- 忘年会予告

12月8日(火)17:00～於奈良ロイヤルホテル
- 芋煮会予定

12月10日(木)12:00～於ならやまBC、
雨天の場合17日(木)に順延
- ならやま里山整備と経団連部分皆伐作業

来年の作業は今年行った部分皆伐エリアのメンテナンス実施。

次年度の助成金申請は、これから手続きをする。
認可決定は来年4,5月頃の予定

10. 「迎春準備」「新春初出式」

- ・迎春準備:12月24日(木)午前中、整理整頓、門松・干支作り
- ・新春初出式:1月7日(木)餅つき、七草粥、

11. その他

- ・ならやま池横の通路沿い植樹計画、業者に依頼予定。費用は年初予算の中で対応。
- ・テントハウスや肥料小屋の目隠しに植樹検討。費用に付いては、28年度予算より「ならやまBC、景観整備・苗木植栽」費充当予定。
- ・28年度GGイベント(2/27,7/23.8/20)担当幹事募集。未経験者に要望。

IV 広報関係

1. ネイチャーなら1月号編集内容:了承される。
2. 会報誌・HPアンケート実施報告
 - ・回答率53%
 - ・アンケート結果に基づき、会報誌は記事の主力を「会の活動」中心に据える。HPは、簡単なしくみに持っていく。
3. 会報誌に会員の声欄一投書欄などを設けたらとの提案があった。
4. シニア自然大学・進路ガイダンス:

1月24日(日)開催、当会からも参加する。

V 周年行事(事業)関係

- ・企画会議メンバー:会長、3副会長、事務局長、会計、2顧問、古川・弓場両氏の10名
これまでに5回実施
基本3本柱
 - ①会の年譜(沿革史)作成
 - ②周年行事期間(H28/9～H29/8)
 - ③会の諸先輩の記念講演会
- 現在、会の運営基本理念を作成中。
次回会議12月20日(日)
- 5. 来年1月度幹事会:1月5日(火)
奈良市ボランティアインフォメーションセンター(はぐくみセンター1階)会議室

以上

歴文クラブ2月の行事 (予告)
「筋違道を歩こう」

2月の歴史文化クラブはオプション行事として、
聖徳太子の「斑鳩から飛鳥への往来道」と云われ
る「筋違道：太子道」を歩きます。

(今回は、黒田から斑鳩の間を歩きます。)

《実施要領》

・2月16日 (火)

近鉄田原本線・黒田駅 9:20 集合

・コース：(詳細は2月号に案内します)

黒田駅⇒太子道を歩き⇒JR法隆寺駅

(主な史跡など) 歩行距離：約9km

孝霊神社、黒田大塚古墳、法楽寺、糸井神社
油掛地蔵、杵築神社、飽波神社、上宮遺跡

・担当世話人：森英雄、富井忠雄、坂東久平



【問】 次の①から⑦の各種
神事が執り行われる祭に
ついてお尋ねします。

①暁祭 ②遷幸の儀

③松の下式 ④還幸の儀

⑤稚児流鏑馬 ⑥南大門交名の儀 ⑦本殿祭

(1) この祭の正式名称をお答えください。

(2) ①から⑦の神事について、執り行われる
順に並べかえてください。

(3) ①から⑦の儀式で、最初の儀式から終わり
の儀式までの時間が決められています。

何時間以内でしょうか。

????????????????

【締切】 1月5日 (火)

【景品】 旬菜etc

【12月号答え】

(1) ①北浦定政『平城宮大内裏跡坪割之図

②特別史跡指定

③朱雀門復元、東院庭園復元、
世界遺産登録 (いずれも正解)

(2) 東院庭園

◇ 申し合わせ ◇

※ ならやまでのプロジェクト活動やイベント
は、前日午後7時前のNHKTV天気予報で
奈良県北部の降水確率が午前60%以上の
場合は、中止になります。

※ 通常活動日【木曜日】が、雨天等により
中止になった場合、翌日【金曜日】を臨時
活動日とします。



◆ 明けましてお目出とうございま
す。当会にとり記念すべき年の幕開
けです。安全に、明るく、元気に、
楽しく、活動したいと思っています。

数ヶ月前にYさんから頂いたネタで、新聞の投
書欄に掲載されたものです。「大根のひげは右と左
の2カ所しか生えていない、そして一直線に根元
に向かって伸びている。大きくて長い大根を『曲
げまい、曲げまい』と両方のひげが協力し合って
支え合っている。もし、片方が力を抜くと曲がっ
た大根になる」と母親から教えられた。

「どんな苦しい時でも、相手を思いやる心が大切
で、結婚したら、夫婦で協力して立派な大根のよ
うな家庭を作りなさい」と諭されたそうです。

相手を思いやる心を大切に、色々な事を進めて
行こうではありませんか。

(行々子)

会報誌[ネイチャーなら]・第168号

発行：奈良・人と自然の会

会長 藤 田 秀 憲



編集チーム代表：坂東久平